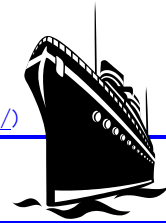


MSI Marine News

トピックス

●海上保険の総合情報サイト **MARINEN@vi** もぜひ、ご覧ください。 (http://www.ms-ins.com/marine_navi/)



アフリカの天然資源開発情勢

今年1月10日から14日にかけて、安倍首相がコートジボワール、モザンビークおよびエチオピアのアフリカ3カ国を訪問しました。日本の首相による本格的なアフリカ歴訪は8年振りで、コートジボワール滞在中には西アフリカ諸国10カ国の首脳が安倍首相との会合のために一堂に会するなど、今回の訪問はアフリカ各国の大きな注目を集めました。昨今、アフリカは豊富な天然資源を背景に高い経済成長率を示しており、「日本にとってのフロンティア」である同地域における日本の存在感を印象付けるため、今回の訪問では計33の民間企業等の代表者を同行させ、官民一体支援の売り込みを行いました。

今回のマリンニュースでは、資源大陸として注目を浴びているアフリカの天然資源開発情勢を俯瞰します。

従来、アフリカにおける天然資源開発は、①北アフリカ地中海沿岸諸国（ガス）、②ギニア湾沿岸諸国（石油）、③南西部（石油）および④北部内陸（石油）の4エリアで主に進められてきました。しかし、最近になってそのほかエリアでの天然資源の発見、開発が相次いでおり、アフリカの資源開発情勢が大きく変貌を遂げようとしています。

2012年には、アフリカ南東モザンビーク沖で世界屈指の天然ガス田が発見され、2018年のLNG生産開始に向け開発が進められています。このガス田開発には日本企業が深く関与しており、東日本大震災以降、発電用燃料として天然ガスの輸入を増やしている日本にとって、モザンビークは今後重要な天然ガス供給源の一つになることが期待されています。安倍首相は同国訪問時に「日モザンビーク天然ガス・石炭発展イニシアティブ」や「ABE イニシアティブ」を通じて、資源開発の分野において今後5年間で300人以上のモザンビーク人の人材育成を行うことを表明するとともに、ビジネス環境整備に向けた官民合同対話を行っていくことを確認しました。更に、モザンビークの総合開発を目的に700億円のODA拠出を表明しました。

モザンビークで海底ガス田が発見された直後、ケニア北西部でも油田が発見されました。ケニアはGDPの25%、労働人口の60%を農業が占める農業国で、これまで油田とは無縁と考えられていましたが、この発見により新たな資源開発エリアとして注目が集まりました。これまでに行われた評価作業により大規模な油田の存在が確認されており、2016年にはパイプライン敷設など具体的な開発作業が開始される見込みです。

また、北部沿岸では世界有数のシェールガス可採埋蔵量を誇るアルジェリアなどでシェールガスの開発が進められており、生産量の増加に伴い、従来の輸出先であるヨーロッパに加え、新たな輸出先候補として日本にも目が向けられています。

資源大陸として台頭したアフリカには、欧米、中国、ブラジル、インド、トルコ等が既に積極的に進出し、同地域における存在感を高めています。日本も官民一体となった取組を加速させ、早期にアフリカ各国と互恵的関係を築き、持続可能なエネルギー供給体制を構築していくことが期待されます。

<参考文献一覧>

外務省 HP <http://www.mofa.go.jp/mofaj/>

独立行政法人 石油天然ガス・金属鉱物資源機構 HP <https://www.jogmec.go.jp/>

